

「小屋がつぶれた」「診療所に行けない」「生業がたいへん」 お困りごとアンケート調査すすみ、さまざまな声が寄せられています

友の会会員様の安否の確認や、この間の災害状況の把握などを兼ねてアンケート用紙を使い、いっせいで電話作戦をおこなっています。

電話をかけると「山崩れで小屋がつぶされた」「田んぼの被害の対応で追われている」「湿布をもらいに行きたいが診療所へなかなか行けない」「コロナ禍で生業が大変」など、さまざまなお困りごとが聴き取れました。大雨災害の爪痕は、まだまだ南関町住民の暮らしや生活に多大な影響を残しており、陥没した道路の復旧を求める声も聞かれました。

ある電話対応していただいた男性は、親仁会の元職員のご家族の方。タクシー会社を営んでいる方でしたが「コロナの影響で観光ユーザーが壊滅。

自治体がおこなっている『乗り合い活動』の受注で何とかやりくりしている」と嘆かれていました。後日健診案内に行ければと思いつつ、訪問に出て行けないことにもどかしさを感じます。

南関町には、有明、不知火、ふるさとの各健康友の会会員が700人以上いらっしゃいますが、1人ひとりの健康状態や生活環境はさまざま。電話を通じて、生活実態と被害状況を丁寧に聴き取り、医療機関として可能な対応を探求しながら地域貢献を行っています。



「元気もらえる」小学生の元気な姿

見守り活動

さかき診療所の前にある第二小学校。学校が再開され、兼ねてから連携している下校時の低学年の交通安全（見守り・旗持当番）も再開されました。

さかき診療所では職場ごとに担当を振り分け、交代で付近の横断歩道で旗持ちを行っています。

道は細いですが、以外に交通量が多い学校とさかき診療所の間。歩道も狭く交通安全活動は必須です。黄色の旗を持ち、横断歩道で子どもたちに「気をつけてね」声をかけます。子どもたちの笑顔で「さようなら」の返事は私たちに元気をくれます。

先日小学校から、「音楽発表会がコロナの影響で自粛になり、子どもたちは発表する場がなくなりました。デイケア利用者さんと、リモートでの演奏会を開くことはできないでしょうか」との相談がありました。前向きに現在検討しています。先日もヤマチクさんからのマスク提供もありましたが、今回も診療所が地域から信頼されていると感じた一場面でした。診療所リニューアルに向け、さらに信頼され連携できる診療所建設をめざします。引き続き見守り活動を頑張ります。



建設業者選定まもなく

まもなく建設業者の選定を行います。これに合わせて設計事務所や法人とも細かな打ち合わせとすり合わせを行いながら、答申で確認した、

「新さかき診療所リニューアル計画」を推進しています。

